

(様式1) 実施報告書

1 応募者情報

(1) 応募者団体情報

団体名	横浜市
-----	-----

(2) 都道府県・政令指定都市からの指定の有無及び連携（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

①都道府県・政令指定都市からの指定の有無

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

指定の有無 有・無

指定の内容

②都道府県・政令指定都市との具体的な連携

（応募者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人または団体の場合のみ記載）

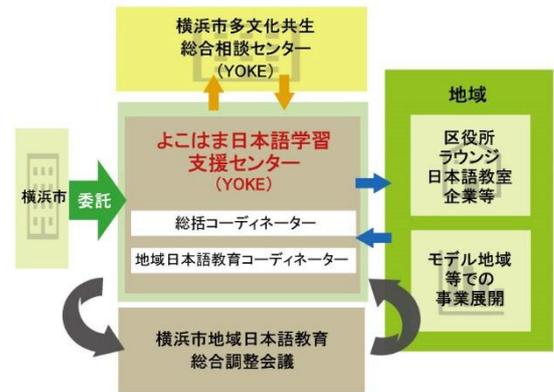
2 事業の概要

(1) 全体概要

①事業の名称	横浜市域における地域日本語教育の体制づくり推進事業
②目的等	
1 目的 「横浜市国際交流協会（YOKE）を中核とした、こどもから大人までの切れ目のない地域の日本語教育の支援、総合的な推進」	
<ul style="list-style-type: none">・新たな在留資格の創設等により、今後、さらなる外国人の増加が見込まれる中、日本語学習を通じて外国人が生活の場で円滑にコミュニケーションのできる環境を整える。・環境整備にあたっては、横浜市国際交流協会（YOKE）におけるこれまでの取組、および令和3年度までの地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業を発展させ、地域日本語教室への支援や、関係機関・団体との有機的な連携の推進を図り、市域の日本語教育を推進する。・日本語教育の推進により、外国人住民の日本語習得の促進を図ることで、外国人が地域で安心して生活し、さらに地域社会で活躍できる、多文化共生のまちづくりの推進にもつなげる。・以上、5か年を通して横浜の地域特性を踏まえた日本語学習を通じ、多文化共生のまちづくりの推進を目指す（「横浜×日本語×多文化共生」）。	
2 本事業を通じて構築を目指す体制の全体像 【現在の状況：図示も可】	

令和2年8月に横浜市国際交流協会（YOKE）内に設置した、地域日本語教育の中核的な拠点「よこはま日本語学習支援センター」が中心となり、事業を推進する（図参照）。センターに総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターを配置し、地域において区役所・ラウンジ・日本語教室・企業等との連携やモデル地域での事業展開を進めていく。また推進にあたっては、総合調整会議、プロジェクト推進ワーキンググループでの意見聴取・意見交換・助言を踏まえつつ、総合的な体制づくり推進事業を進める。

推進事業は、横浜市国際交流協会（YOKE）に委託して実施する。YOKEはこれまで市内日本語学習におけるコーディネート等を通じて、地域日本語教室（130以上）とネットワークを構築し、また専門的なノウハウを蓄積してきた。さらに、令和元年度から4年度まで「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」の本市事業を受託した実績を有する。



【構築を目指す体制：図示も可（上記に構築する体制を追記）】
追記は特になし。

（2）令和5年度事業の概要

①事業の期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日（12カ月間）

②前年度までの年次計画における進捗状況（新規応募団体は記載不要）

（令和2年度）

令和元年度に実施した「地域日本語教育の実態調査」および「横浜市域における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のためのアクションプラン」の策定に基づき事業を行った。「よこはま日本語学習支援センター」の設置をはじめとする、横浜市域における地域日本語教育の体制づくりに取り組んだ。また、企業従業者向け日本語教室、ICT活用促進の講習会など、新たなニーズに合わせた事業を展開した。

（令和3年度）

モデル地域3区を中心に、関係機関・団体とのより一層の連携促進を図りつつ、地域日本語教室への支援の充実、モデル地域での関係団体のネットワーク構築の強化、新たなニーズに対応する企業と連携したプログラムの実施などをさらに展開した。オンライン初期日本語教室のカリキュラムを検討、実施した。また、情報冊子やホームページの充実など、広報も強化した。

（令和4年度）

令和3年度の事業を継承し、モデル地域3区を中心に、関係機関・団体とのより一層の連携促進を図りつつ、地域日本語教室への支援の充実、企業と連携したプログラムの実施、情報冊子やホームページの充実など、広報強化を行った。とりわけモデル地域では、子育て、地域福祉など広く外国人住民に係る団体とのネットワークを構築した。ICT活用促進講習会・日本語教室の充実を図った。また、ウクライナ避難民受入れに伴い、ニーズに合わせた日本語教室や、日本語学習を通じた文化理解のワークショップ等を開催した。

③前年度までの成果と課題（新規応募団体は記載不要）

（成果）

- ・総合的な体制作り推進のための枠組みをつくり、なかでも 5 つの重点取組（よこはま日本語学習支援センターの充実／地域日本語教育推進モデル地域での展開／産業界等と連携した、新たな日本語教室の取組／ウクライナ避難民への支援／地域日本語教室等の活動充実のための連携・支援に沿った）事業展開を行った。
- ・体制作りの基盤を整え、「よこはま日本語学習支援センター」の運営、総合調整会議やプロジェクト推進ワーキンググループを実施した。
- ・情報冊子発行や web サイトの充実、教室データベースの更新、業界団体の広報媒体の活用などにより、情報を受発信する環境を整え、広報強化を行った。
- ・モデル地域での展開、また、各事業を通じて関係機関・団体等との連携が進んだ。
- ・企業や業界団体との連携が進み、外国人従業員向けの日本語教室において、一定程度の定着効果がみられるようになった。
- ・親子、ICT 活用など新たな分野の日本語教育に引き続き取り組んだ。
- ・ウクライナ避難民向けの日本語学習支援を行った。

（課題）

- ・よこはま日本語学習支援センターの機能、特に、相談対応、情報提供機能を充実させること。また、センターを中心とする本取組みの周知にさらなる工夫が必要である。
- ・体制作りの推進にあたり、外国人当事者の声の反映と参加の促進が課題である。

④令和 5 年度の目標

- ・外国人住民に身近な存在である「地域日本語教室」を横浜市域の地域日本語教育推進のベースとして、教室間のネットワークを通して日本語指導力の強化や教室の活動内容の改善等、各教室の底上げが図られるような仕組みづくりを行う。
- ・「横浜市国際交流協会（YOKE）」は地域日本語教育の中核的な役割を担い、上記ネットワーク構築の支援、日本語学習支援者の発掘や育成、新たなニーズに応える日本語教室の開催などの実施を通し、地域における日本語教育を支援・推進する。
- ・市域日本語教育の推進に係る関係機関・団体等の有機的な連携の促進が図られる。
- ・よこはま日本語学習支援センターを中心とする本取組みをさらに周知するなど、広報力が高まることによって、日本語学習希望者や支援者・団体等が、情報にアクセスしやすくなる。

⑤令和 5 年度の主な取組内容

地域日本語教育の中核的な拠点「よこはま日本語学習支援センター」を基盤とし、引き続き関係機関・団体（市・区役所、地域日本語教室、NPO 法人、日本語教育機関、企業、大学、社会福祉協議会、市民活動支援センターや社会福祉協議会等のボランティアセンター、当事者組織等）との連携促進を図りつつ、地域日本語教室への支援の充実、モデル地域での関係団体のネットワーク構築の強化、新たなニーズに対応する企業と連携したプログラムの検討実施などを展開した。

全体の枠組みは以下のとおり。

【基盤】柱 1：体制作り推進のための基盤の整備

【取組】柱 2：市域における地域日本語教育の推進、連携

柱 3：研修、地域日本語教育・支援

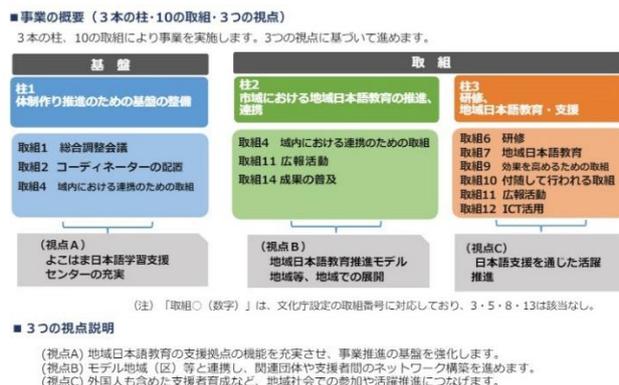
令和5年度事業は、3本の柱、10の取組（うち3つの視点）で構成し、事業を実施した。

（右概要図参照）

（重点A）よこはま日本語学習支援センターの充

（重点B）地域日本語教育推進モデル地域等
地域での展開

（重点C）日本語支援を通じた活躍促進

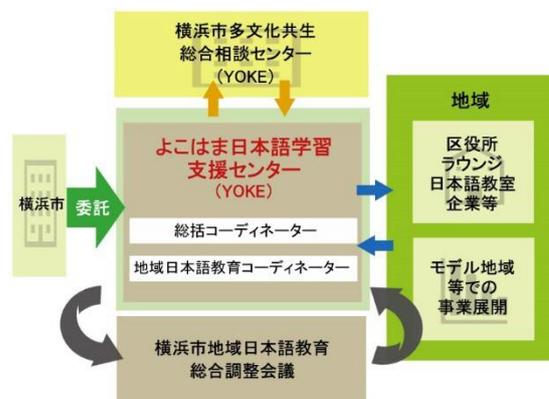


3 事業の実施体制

（1）実施体制（図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター、調査計画推進コーディネーターを含めて記載してください。）

令和2年8月に横浜市国際交流協会（YOKE）内に設置した、地域日本語教育の中核的な拠点「よこはま日本語学習支援センター」が中心となり、事業を推進した（図参照）。センターに総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターを配置し、地域において区役所・ラウンジ・日本語教室・企業等との連携やモデル地域での事業展開を進めた。また推進にあたっては、総合調整会議、総合調整会議の分科会であるプロジェクト推進ワーキンググループでの意見聴取・意見交換・助言を踏まえつつ総合的な体制づくり推進事業を進めた。

推進事業は、横浜市国際交流協会（YOKE）に委託して実施した。YOKEはこれまで市内日本語学習におけるコーディネート等を通じて、地域日本語教室（130以上）とネットワークを構築し、また専門的なノウハウを蓄積してきた。また、令和元年度から4年度に「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」の本市事業を受託した実績を有する。



《事業の中核メンバー》

	氏名	所属	職名	役割
1	門 美由紀	横浜市国際交流協会	多文化共生推進課長	統括責任者
2	藤井 美香	横浜市国際交流協会	多文化共生推進課シニアコーディネーター	総括コーディネーター・事務局
3	小林 航大	横浜市国際交流協会	多文化共生推進課	事務局
4	板垣 美紀	横浜市国際交流協会	多文化共生推進課	地域日本語教育コーディネーター

				ター
5	方 舜姫	横浜市国際交流協会	多文化共生推進課	地域日本語教育コーディネーター
6	前波 美雪	横浜市国際交流協会	多文化共生推進課	地域日本語教育コーディネーター

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

●NPOやボランティア団体との連携・協力

- ・地域日本語教室運営団体間の情報共有を進め、ネットワークづくりにもつながるよう、会議・研修会等を開催するとともに、地域日本語教室の好事例普及のための仕組みについて意見交換を行った。また、外国につながる親子（就学前の子どもとその親）の支援を行う子育て支援団体・日本語教室の担当者が集まる機会も設け、子育て支援分野と多文化共生分野のつながりを意識した。
- ・日本語・学習支援教室データベース掲載団体に、講座情報提供などを適宜行い、また、情報冊子への寄稿を依頼するなどして、日常的なつながりづくりに努めた。また、日本語ボランティア入門講座において、新たなボランティアを募集する地域日本語教室の参加を得た。

●区役所や国際交流ラウンジとの連携・協力

- ・地域日本語教育推進モデル事業は、区域における「日本語学習支援を通じた多文化共生のまちづくり」という観点から、該当の区役所や国際交流ラウンジと連携・協力して実施した。区のニーズに合わせ、支援者向け講座や連絡会等を行った。また、その取組実績を示し、他区の参考となることに期待して、区役所や地域日本語教育コーディネーターが報告者となる、モデル地域報告会を行った。

●他局との連携

- ・総合調整会議へ、学校教育課程における日本語教育事業を所管する市教育委員会事務局が参画することで、本事業の取組等を共有し、連携・協力を図った。

4 令和5年度の実施内容

(1) 実施内容

1. 広域での総合的な体制づくり				
【必須項目】				
(取組①) 総合調整会議の設置				
① 構成員				(氏名五十音順)
	氏名	所属	職名	役割
1	岩崎 ホセミゲル	GLOBAX 合同会社	CEO	企業・外国人当事者
2	岩田 一成	聖心女子大学	教授	地域日本語教育
3	金子 真澄	NPO 法人まんま	理事長	NPO (子育て支援)
4	嶽肩 志江	横浜国立大学	非常勤講師	地域日本語教育
5	長岡 博司	翰林日本語学院	校長	日本語学校
6	林田 育美	都筑多文化・青少年交	館長	NPO (多文化共生・青少年)

		流プラザ		
7	細谷 早里	関東学院大学	教授	多文化共生
8	増尾 和行	たちばな会特別養護老人ホーム天王森の郷	総務部 総務課 課長 人財開発担当	企業等
9	丸山 伊津紀	NPO 法人地球学校	理事長	NPO (地域日本語教室)
10	安田 道静	横浜市教育委員会	横浜市日本語講師	日本語教育・外国人当事者
11	日岐 高之	横浜市中区総務部区政推進課	企画調整係長	オブザーバー
12	横溝 亮	横浜市教育委員会事務局小中学校企画課	主任指導主事	オブザーバー
13	風間 梨沙	横浜市国際局政策総務課	担当係長	オブザーバー

②実施結果

実施回数	3回
実施スケジュール	7月4日 推進体制および事業の方向性について、事業内容について 11月15日 事業の実施状況について 3月4日 事業の実施状況、及び振り返り、今後の方向性について
主な検討項目	<ul style="list-style-type: none"> ・推進体制および事業の方向性、事業内容についての協議 ・各分野における地域日本語教育に係る情報・意見交換 ・事業の振り返り、及び今後の方向性についての協議 <p>その他、総合調整会議の分科会としてプロジェクト推進ワーキンググループを開催した。(2月27日開催。テーマ：今後の体制づくり推進に向けた、市域における地域日本語教育をめぐる課題とニーズ把握について)</p>
(取組②-1) 総括コーディネーターの配置	
<p>横浜の地域日本語教育や多文化共生に精通する、横浜市国際交流協会職員(1名)を配置した。主に以下の業務を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合調整会議および、プロジェクト推進ワーキンググループの委員・メンバーとの連絡調整 ・事業推進のためのスタッフ間連携推進 ・事業推進にあたっての関連機関・組織との関係づくり ・モデル地域事業における区役所、地域日本語教室等との連絡、関係づくり、事業推進 ・地域日本語教室の活動状況把握とネットワーキング促進 	
(取組②-2) 地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組	
<p>地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】</p> <p>地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援【(○)】</p> <p>(1) 地域日本語コーディネーターの配置</p> <p>地域日本語教育コーディネーター3名(うち、1名は外国人当事者)を、横浜市国際交流協会に配置し、担当モデル地域事業を中心に、本事業における各取組の企画・運営・コーディネートを行った。また、</p>	

総合調整会議やプロジェクト推進ワーキンググループ、文化庁会議等に参加し、外部有識者等との情報交換を行った。1名が文化庁「地域日本語教育コーディネーター研修」を受講した。

(2) 地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援

国際交流ラウンジの日本語学習支援担当者を対象とした連絡会や、グループ運営・ボランティアマネジメントをテーマとした地域日本語教室運営者向け研修会を開催した。また、モデル地域において地域日本語教室や国際交流ラウンジを巻き込んだ事業の企画運営を行うとともに、相談対応や各事業を通じて、支援者との対話を行う機会とした。文化庁「地域日本語教育コーディネーター研修」などの外部研修への参加を促した。横浜市国際交流協会所属コーディネーターの内部研修として、出入国在留管理庁を招いた「在留支援のためのやさしい日本語」学習会を実施した。

(取組②-3) 調査・推進計画策定コーディネーターの配置

なし

【重点項目】

(取組③) 日本語教育に関する基本的な方針に必要な地域の実態調査、基本的な方針の作成

なし

(取組④) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組

(4-1) よこはま日本語学習支援センターの運営

【時期】 4月1日（土）～3月31日（日）

【場所】 公益財団法人横浜市国際交流協会内

【役割】 1 地域日本語教育の総合的な体制づくりを進める基盤となる拠点
2 外国人住民の日本語習得支援のための拠点

(4-2) 連携（連絡会、研修会）

関係団体間のネットワーク推進に向け、地域日本語教室や国際交流ラウンジ等を対象とする連絡会や研修会を開催した。

連絡会 1

国際交流ラウンジ日本語支援事業に関する、担当者間の情報交換や情報共有を行った。

【名称】 横浜市国際交流ラウンジ協議会日本語分科会

【実施回数】 1回

【受講者数】 13団体 19人

【実施場所】 よこはま国際協力センター会議室・オンライン（zoom）

【内容】 ・各ラウンジの活動状況の共有

・文化庁「生活 Can do」について

・横浜市における「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」について

【講師】 1人

【開始した月】 9月

(開催日) 9月26日(火) 14:00-16:00

連絡会 2

外国籍、外国につながる親子(就学前の子どもとその親)の支援を行う子育て支援団体の担当者が、取り組みや課題を共有した。

【名称】外国につながる就学前の子どもと親の支援に関する情報交換会(横浜)

【実施回数】1回

【受講者数】18団体23人

【実施場所】オンライン(Zoom)

【内容】各団体の取り組み紹介、情報交換等

【開始した月】2月

(開催日) 2月8日(木) 15:00-17:00

研修会 1

地域日本語教室運営者・コーディネーター等を対象に、団体運営の課題解決やコーディネーションの有用性について学ぶ機会を提供した。

【名称】横浜市国際交流ラウンジ協議会日本語分科会 合同研修会

「どうしていますか?教室運営～実践から考えるグループのこと、活動のこと～」

【実施回数】1回

【受講者数】20人(うち国際交流ラウンジ 5ラウンジ11人)

【実施場所】横浜国際協力センター共用会議室

【内容】・日本語教室の実践事例を共有するグループワーク

- ・ボランティアコーディネーションに関する講義
- ・参加者同士の情報交換、情報共有

【開始した月】2月

(開催日) 2月16日(金) 10:00-12:30

【講師】1人

【備考】(6-1)日本語教室運営者等向けの研修と同一

(4-2) 連携: エリア別窓口の設定

区域・地域での日本語学習支援の取り組みをよりサポートできるよう、よこはま日本語学習支援センターと各区が情報交換・相談・連携しやすい関係をめざす一環として、エリア別窓口を設定した。

エリア

東部 鶴見区・神奈川区・西区・中区・南区

西部 保土ヶ谷区・旭区・泉区/(モデル地域) 瀬谷区

南部 港南区・金沢区・戸塚区・栄区/(モデル地域) 磯子区

北部 港北区・緑区・青葉区・都筑区

国際交流ラウンジ訪問・ヒアリング

国際交流ラウンジ等を訪問、日本語学習支援事業についてのヒアリング・意見交換を行った。

【テーマ】ラウンジにおける日本語学習支援（地域日本語教育）事業について

【実施箇所】11箇所（国際交流ラウンジ10・区役所1）

【実施場所】各国際交流ラウンジ、区役所

【内容】日本語事業の運営体制について／日本語教室について／研修会について／ラウンジでの連携について／区域の教室などとの連携・ネットワークについて 他

【開始した月】8月

（実施期間）8月23日～9月25日

(4-3) 相談対応：日本語学習、支援に関わる相談対応

よこはま日本語学習支援センターとして相談や問い合わせを受け、対応した。（件数には、多文化共生総合相談センターでの対応分は含まない）

【名称】YOKE にほんご相談室

【件数】162件 3月22日現在

【主な内容】・日本語学習支援希望（日本語教師の求人・ボランティア希望・講座情報）

- ・日本語学習希望者からの教室紹介希望
- ・研修講座企画
- ・研修講師の紹介依頼

(4-4) 相談対応：地域日本語教室への個別訪問

地域日本語教室や区役所等が抱える地域での地域日本語教育に係る課題の解決に伴走した。

【名称】まちの日本語伴走隊

【件数】4件

【依頼内容および依頼者】

- ・日本語ボランティア講座の企画協力（国際交流ラウンジ）3件
- ・内部研修会の講師紹介（地域日本語教室）1件

(4-5) 広報・情報提供：情報冊子「にほんごコミュニケーション」の発行

【名称】にほんごコミュニケーション

【発行日】7月5日（通算12号）、11月5日（通算13号）、3月5日（通算14号）

【部数】各3,000部

【体裁】A4版12ページ

【言語】日本語・英語（英語は冊子の一部分をwebサイトで公開）

【内容】地域日本語教育に関する情報提供や、教室の取り組みなどの紹介

横浜に暮らす外国人住民のトークリレーやおすすめスポットを紹介

（特集）12号「2022年度事業ふりかえり会」から展望する 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業 横浜×日本語×多文化共生

13号 2022年度 地域日本語教育モデル地域 活動報告会 支援団体のネットワークで
進める地域の日本語教育と多文化共生のまちづくり

14号 横浜×日本語×多文化共生 ～誰もが働きやすく、活躍できる横浜を目指して

(4-6) 広報・情報提供：ホームページの充実

よこはま日本語学習支援センターのホームページの運営を行った。また、日本語教室や支援者向け講座の情報等の充実、英語ページの更新など一部ページのリニューアルも行った。

【内容】よこはま日本語学習支援センターWEBサイトの公開

【言語】日本語・英語・その他言語は自動翻訳機能を活用

【年間アクセス数】日本語版 86,759件 3月22日現在

英語版 5,594件 3月22日現在

【URL】日本語版 <https://yokohama-nihongo.com/>

英語版 <https://yokohama-nihongo.com/en/>

(4-7) 広報・情報提供：日本語・学習支援教室データベース（横浜）の運営

市内日本語教室・学習支援教室の情報を掲載した教室データベースの運営を行った。

【名称】日本語・学習支援 教室データベース（横浜）

【内容】横浜市内で活動する日本語教室・学習支援教室の情報

【掲載数】140 教室

(4-8) 広報・情報提供：コミュニケーション促進に向けた講座や情報提供

地域日本語教室の活動状況についてアンケートを実施し、結果を公表した。

【対象】日本語・学習支援教室データベース（横浜）掲載団体（教室）

【実施時期】5月

【対象】138 教室

【回収】99 教室 回収率 72%

【内容】1 データベース掲載内容の変更についての有無

2 オンライン対応の表示希望の有無

3 学習者募集・支援者募集の有無

【その他】アンケート結果に基づき、学習者／指導スタッフ募集中の教室リストをWEBサイトに掲載した。

(4-9) 地域日本語教育推進モデル地域

モデル地域の設定：2区（磯子区・瀬谷区）

当該地域と連携しながら区域での地域日本語教室支援や関連団体とのネットワーク構築等を進めた。

YOKE に地域日本語教育コーディネーターを配置し、モデル地域・事業の連絡調整、実施等を行う。内容は、地域の状況・ニーズをベースとして、「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」の各取組を組み合わせて実施した。

各モデル地域における取組内容

(4-9-1)磯子区

1. 連絡会への参加

磯子区内で活動する日本語教室間の連絡会に参加した。

【名称】 磯子区日本語教室連絡会

【実施回数】 3回

【参加者数】 7団体（磯子区内で活動する日本語教室・いそご多文化共生ラウンジ）

【実施場所】 いそご多文化共生ラウンジ

【内容】 活動状況についての情報交換等

【開始した月】 8月

（開催日） 8月8日（火）、11月14日（火）、3月26日（火）

2. 講座

講座 1

新たに磯子区で日本語学習支援者として活動する人を増やすことを目的として、講座を行った。

【名称】 講座・磯子で日本語ボランティア入門

【実施回数】 全3回

【受講者数】 23人（のべ53人）

【実施場所】 横浜市社会教育コーナー

【内容】 第1回 磯子区の多文化共生／日本語ボランティアとは

第2回 学習者としての体験／外国語としての日本語、
コミュニケーションのための「やさしい日本語」

第3回 日本語教室での交流活動を考えてみましょう

【講師】 1人（のべ3人）

【開始した月】 11月

（開催日） 11月21日、11月28日、12月5日（火） 9:30-12:30

講座 2

区民利用施設のスタッフが多文化共生に対する意識をもち、外国人住民への対応力を高めることができるよう、「区民利用施設におけるやさしい日本語」をテーマとした講座を行った。

【名称】 使ってみよう「やさしい日本語」～だれにとってもやさしい施設をめざして～

【実施回数】 1回

【受講者数】 20人（磯子区内区民利用施設スタッフ）

【実施場所】 横浜市社会教育コーナー

【内容】 多文化共生とやさしい日本語概論、

やさしい日本語の演習、参加者同士の情報交換等

【講師】 1人（のべ1人）

【開始した月】2月

(開催日) 2月21日(水) 14:00-16:30

(4-9-2) 瀬谷区

1. 情報交換会

外国にルーツのある方の区内での支援等の状況を関係者間で共有することを目的とした、情報交換会に参加した。

【名称】瀬谷区多文化共生に係る情報交換会

【実施回数】2回

【参加者数】第1回 12人(地域日本語教室、子育て支援団体、地域ケアプラザ、社会福祉協議会、区役所等)

第2回 9人(地域日本語教室、子育て支援団体、社会福祉協議会、区役所等)

【実施場所】瀬谷区役所会議室

【内容】・活動・施設運営のなかでの、外国人住民との関わりについての情報交換
・瀬谷区国際交流支援事業の取組みに関する意見交換 等

【開始した月】6月

(開催日) 第1回 6月28日(水) 15:30-16:30

第2回 1月30日(火) 15:45-16:45

2. 講座

講座1

学校教職員や支援者等にむけた、学校や地域における児童・保護者とのよりよいコミュニケーションを考える研修を行った。

【名称】夏季校内職員等研修

「やさしい日本語」でコミュニケーション～外国につながる児童・保護者とのよりよい関係を築くために～

【実施回数】1回

【受講者数】36人(小学校教職員、校内ボランティア、区役所職員、支援団体スタッフ等)

【実施場所】横浜市立相沢小学校

【内容】1 やさしい日本語について

2 外国の方の体験談(保護者として/支援者として)

3 児童・保護者とのよりよいコミュニケーションに向けた行動を考える

【開始した月】7月

(開催日) 7月21日(金) 10:30-12:00

【講師】2人

講座2

【名称】日本語ボランティア入門講座

【実施回数】全 4 回

【受講者数】23 人 (のべ 87 人)

第 4 回ツアー参加の外国人 8 人

パキスタン 3 人、タイ 2 人、アメリカ 1 人、中国 1 人、日本 1 人

【実施場所】第 1～3 回：瀬谷区役所

第 4 回：瀬谷地区センター、瀬谷区区内の公共施設等

【内容】第 1 回 瀬谷区で多文化共生

第 2 回 「やさしい日本語」でコミュニケーション

第 3 回 日本語ボランティア活動を知ろう

第 4 回 「やさしい日本語」で地域めぐりツアー

【講師】1 人 (のべ 3 人)

【講師アシスタント】2 人 (のべ 2 人)

【開始した月】11 月

(開催日) 11 月 4 日(土)、11 月 18 日(土)、12 月 17 日(日) 10:00-12:00

1 月 20 日(土) 10:00-14:00

(4-9-3)モデル地域連絡会

モデル地域事業実施にあたり、関係者（磯子区役所、緑区役所、瀬谷区役所、市役所、YOKE）間での共有を行った。

【名称】地域日本語教育推進モデル地域連絡会

【実施回数】1 回

【参加者数】14 人

【実施場所】横浜国際協力センター会議室・オンライン（Zoom）

【内容】2022・2023 年度モデル地域の各区取組内容の共有、情報提供等

【開始した月】7 月

(開催日) 7 月 11 日（火）10:30-12:00

(4-9-4) 2022 年度モデル地域活動報告会

横浜市職員または市内公共施設等のスタッフで、多文化共生業務を進めようとしている方を対象とした多文化共生セミナー（テーマ：地域日本語教育）として実施した。

【名称】2022 年度地域日本語教育推進モデル地域活動報告会

「支援団体のネットワークで進める地域の日本語教育と多文化共生のまちづくり」
～モデル地域 3 区での実践報告～

【実施回数】1 回

【受講者数】51 人

【実施場所】オンライン（Zoom）

【内容】基調報告「子どもから大人までの切れ目のない地域日本語教育を目指して」

活動報告「2022 年度地域日本語教育推進モデル地域 3 区での取組」

【講師】1 人

【開始した月】8 月

(開催日) 8 月 30 日 (水) 15:00-17:00

(4-10) 地域日本語シンポジウム「まちの日本語プラットフォーム」

横浜市域における地域日本語教育の総合的な体制づくりへの取組を広く周知し、取り組みの現状の共有、さらには今後の展望や連携体制づくりのきっかけとするシンポジウムを開催した。

【名称】横浜 まちの日本語プラットフォーム 2023

「外国につながるわたしのチャレンジ～多様な人が活躍し、ともに暮らす地域へ～」

【実施回数】1 回

【受講者数】106 人

【実施場所】オンライン (Zoom)

【内容】事例報告「日本での私のチャレンジとその思い、地域で出会った仲間たち」

登壇者パネルディスカッション「外国につながる方の活躍のために、必要なこと」

【開始した月】2 月

(開催日) 2 月 26 日 (月) 19:00-21:00

(4-11) 2022 年度地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業ふりかえり会

事業関係者 (各事業の講師、協力者等) とともに 2022 年度本事業をふりかえり、体制づくりの推進に向けて今後を展望する場として実施した。

【名称】2022 年度地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業ふりかえり会

【実施回数】1 回

【参加者数】33 人

【実施場所】横浜国際協力センター会議室

【内容】事業担当者・協力者による 2022 年度各事業のふりかえり、参加者の情報交換・意見交換

【開始した月】5 月

(開催日) 5 月 24 日 (水) 14:00-17:00

(取組⑤) 市区町村への意識啓発のための取組

なし

(取組⑥) 日本語教育人材に対する研修

(6-1) 日本語教室運営者等向けの研修

地域日本語教室運営者・コーディネーター等を対象に、団体運営の課題解決やコーディネーションの有用性について学ぶ機会を提供した。

【名称】地域日本語教室運営者・コーディネーター向け研修

「どうしていますか？教室運営～実践から考えるグループのこと、活動のこと～」

【実施回数】1 回

【受講者数】20人（うち国際交流ラウンジ 5ラウンジ11人）

【実施場所】横浜国際協力センター共用会議室

【内容】・日本語教室の実践事例を共有するグループワーク
・ボランティアコーディネーションに関する講義
・参加者同士の情報交換、情報共有

【開始した月】2月

（開催日）2月16日（金）10:00-12:30

【講師】1人（のべ1人）

【その他】（4-2）連携（連絡会、研修会）

横浜市国際交流ラウンジ協議会日本語分科会 合同研修会 と同一

（6-2）日本語ボランティア入門研修（一般向けコース）

地域での日本語学習支援に関心がある人が、スムーズに活動に入れるよう多文化共生を意識した講座を行った。第4回は地域日本語教室等との交流も行った。

【名称】「日本語ボランティア入門講座～横浜で始めよう！日本語ボランティア」

【実施回数】全4回

【受講者数】17人（のべ55人）

〈第4回交流会のみ参加〉12人

内訳 地域日本語教室5教室6人

入門講座（外国人コース）参加（経験）者6人

【実施場所】横浜国際協力センター共用会議室

【内容】第1回「日本語ボランティア活動って、どんな活動？」

第2回「日本語教室ってどんなところ？」

第3回「試してみよう！日本語ボランティア活動」

第4回 1部「次の一步を踏み出そう！」

2部 交流会

地域日本語教室ボランティア、日本語学習経験がある外国の方との交流会

【開始した月】9月

（開催日）9月8日、9月15日、9月22日（金）13:30-16:00

9月29日（金）13:30-16:30

【講師】2人（のべ5人）

（6-3）日本語ボランティア入門研修（外国人向けコース）

自分の日本語学習や日本での生活経験を活かして、これから日本語教室などで日本語学習支援を始めたい日本語を母語としない人向けの学習会を開催した。

【名称】外国の方向け日本語ボランティア入門講座

【実施回数】全3回

【受講者数】8人（のべ15人）

インド2人、中国2人、インドネシア1人、韓国1人、台湾1人、

ミャンマー1人

【実施場所】 八洲学園大学、横浜国際協力センター共用会議室

【内容】 第1回「日本語学習支援とは」

第2回「理想の日本語教室について話しあおう！」

第3回「日本語学習支援活動を試みよう！」

入門研修（一般コース）交流会に任意参加

【開始した月】 9月

（開催日） 9月6日、9月20日、9月27日（水）14:00-16:30

【講師】 1人（のべ3人）

(6-4) 日本語ボランティアブラッシュアップ研修

日本語学習支援者にスキルアップの機会を提供し、テーマについて学ぶとともに、所属教室を超えた情報交換の場としても活用した。

【名称】 日本語ボランティアブラッシュアップ講座「生活 Can do を知り、自分の支援に取り入れてみよう！」

【実施回数】 全2回

【受講者数】 32人（のべ57人）

【実施場所】 オンライン（Zoom）

【内容】 第1回 「生活 Can do」って何だろう？

第2回 「生活 Can do」を自分の支援に取り入れてみよう！

【開始した月】 12月

（開催日） 12月11日（月）10:00-12:00

12月18日（月）10:00-12:00

【講師】 1人（のべ2人）

(6-5) ICT活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」

日本語学習支援者に対し、初歩的な段階からオンラインへの参加を支援し、さらに、オンラインでの支援方法や教材の活用法を学ぶ機会を提供した。

講座1

【名称】 支援者向け オンライン日本語学習支援講座 基本編&応用編（6月コース）

【実施回数】 全2回

【受講者数】 29人（のべ49人）

【実施場所】 オンライン（Zoom）

【内容】 基本編「簡単で楽しいオンライン日本語支援を試みよう」

応用編「オンライン日本語学習サイトを活用した支援を体験しよう」

【開始した月】 6月

（開催日） 基本編 6月22日（木）10:00-12:00

応用編 6月29日（木）10:00-12:00

【講師】 2人（のべ2人）

講座2

【名称】 支援者向け オンライン日本語学習支援講座 基本編&応用編（12月コース）

【実施回数】 全2回

【受講者数】 24人（のべ41人）

【実施場所】 オンライン (Zoom)

【内容】 基本編 「簡単！楽しい！オンラインでコミュニケーション！～オンラインで日本語支援をしてみよう～」

応用編 「オンライン日本語学習サイトを活用した支援を体験しよう」

【開始した月】 12月

(開催日) 基本編 12月14日(木) 10:00-12:00

応用編 12月21日(木) 10:00-12:00

【講師】 2人(のべ2人)

(6-6) 日本語教育人材の活躍促進

横浜市における「多文化共生のためのまちづくり」に寄与する教室活動の充実を図るために、教室実習型研修参加経験者を中心とした日本語学習支援者が、地域日本語教室での活動の実践や共有や情報交換を行った。

【名称】 よこはま地域日本語実践もちより会

【実施回数】 1回

【受講者数】 8人(うちスタッフ3人)

【実施場所】 オンライン (zoom)

【内容】 活動に関する活動近況報告、及び情報提供

【開始した月】 2月

(開催日) 2月28日(水) 14:00-16:00

(6-7) (取組4)地域日本語教育推進モデル地域事業として実施した研修 【再掲】

(4-9-1)磯子区

講座1 (再掲)

【名称】 講座・磯子で日本語ボランティア入門

【実施回数】 全3回

【受講者数】 23人(のべ53人)

【実施場所】 横浜市社会教育コーナー

【内容】 第1回 磯子区の多文化共生／日本語ボランティアとは

第2回 学習者としての体験／外国語としての日本語、
コミュニケーションのための「やさしい日本語」

第3回 日本語教室での交流活動を考えてみましょう

【講師】 1人(のべ3人)

【開始した月】 11月

(開催日) 11月21日、11月28日、12月5日(火) 9:30-12:30

講座2 (再掲)

【名称】 使ってみよう「やさしい日本語」～だれにとってもやさしい施設をめざして～

【実施回数】 1回

【受講者数】 20人(磯子区内区民利用施設スタッフ)

【実施場所】 横浜市社会教育コーナー

【内容】 多文化共生とやさしい日本語概論、やさしい日本語の演習、参加者同士の情報交換等

【講師】 1 人 (のべ 1 人)

【開始した月】 2 月

(開催日) 2 月 21 日 (水) 14:00-16:30

(4-9-2) 瀬谷区

講座 1 (再掲)

【名称】 夏季校内職員等研修

「やさしい日本語」でコミュニケーション～外国につながる児童・保護者とのよりよい関係を築くために～

【実施回数】 1 回

【受講者数】 36 人 (小学校教職員、校内ボランティア、区役所職員、支援団体スタッフ等)

【実施場所】 横浜市立相沢小学校

【内容】 1 やさしい日本語について

2 外国の方の体験談 (保護者として / 支援者として)

3 児童・保護者とのよりよいコミュニケーションに向けた行動を考える

【開始した月】 7 月

(開催日) 7 月 21 日 (金) 10:30-12:00

【講師】 2 人

講座 2 (再掲)

【名称】 日本語ボランティア入門講座

【実施回数】 全 4 回

【受講者数】 23 人 (のべ 87 人)

第 4 回 ツアー参加の外国人 8 人

パキスタン 3 人、タイ 2 人、アメリカ 1 人、中国 1 人、日本 1 人

【実施場所】 第 1～3 回：瀬谷区役所

第 4 回：瀬谷地区センター、瀬谷区区内の公共施設等

【内容】 第 1 回 瀬谷区で多文化共生

第 2 回 「やさしい日本語」でコミュニケーション

第 3 回 日本語ボランティア活動を知ろう

第 4 回 「やさしい日本語」で地域めぐりツアー

【講師】 1 人 (のべ 3 人)

【講師アシスタント】 2 人 (のべ 2 人)

【開始した月】 11 月

(開催日) 11 月 4 日 (土)、11 月 18 日 (土)、12 月 17 日 (日) 10:00-12:00

1 月 20 日 (土) 10:00-14:00

	<p>(水) 19:30~21:00</p> <p>【講師】2人 (のべ20人)</p> <p>【その他】企業向けニュースレターを発行し、教室の様子を伝えた</p> <p>【関係機関との連携】あり (市工業連合会および横浜市経営支援財団から、企業への橋渡しや広報協力を得た。横浜市内の企業数社からニーズ聞き取りや従業員の教室参加などを得た)</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした</p> <p>教室2 (2期) 企業従業員向け日本語教室</p> <p>【名称】今すぐ使える!しごとの日本語教室 2期</p> <p>【受講者数】16人 (のべ103人) ベトナム9人、中国3人、ミャンマー2人、インド1人、フィリピン1人 横浜の企業に就労している外国籍従業員 (製造業、IT、プラントエンジニアリング等6社)</p> <p>【開始した月】11月 (開催日) 11月22日、11月29日、12月6日、12月13日、12月20日、1月10日、1月17日、1月24日、1月31日、2月7日 (水) 19:30-21:00 以下は、教室1 (1期) と同じ。</p> <p>【目標】【実施回数】【実施場所】【内容】【講師】【関係機関との連携】日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無</p>
活動2 既設	<p>(7-2) 外国人親子日本語教室</p> <p>横浜市内の就学前の子どもと親が楽しみながら日本語に関わる機会として開催した。</p> <p>教室1 (オンライン)</p> <p>【名称】外国人親子日本語教室「なつやすみ YOKE でにほんご (オンライン)」</p> <p>【目標】外国につながる親子が子育て、子どもの成長を見守るうえで学んでおくべき知識と、それに関連した日本語能力を習得することを通して、子育ての今後の見通しを立てる一助とする。</p> <p>【実施回数】2回 (1回120分)</p> <p>【受講者数】15人 親子7組 (親:7人、子ども:8人) (のべ20人) フィリピン2人、インドネシア2人、イラン2人、中国2人、タイ3人、日本2人、香港2人</p> <p>【実施場所】オンライン (Zoom)</p> <p>【受講者募集方法】地域子育て支援拠点・団体を通じた案内、地域日本語教室等への案内、公共施設 (国際交流ラウンジ、区役所等) などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS 等による広報</p> <p>【内容】子どもと親と一緒に楽しく日本語を勉強できる講座。</p> <p>【テーマ】第1回 「おうちであそぼうⅠ」にほんごゲーム 第2回 「おうちであそぼうⅡ」てあそびうた</p>

	<p>【開始した月】8月 (開催日) 8月23日(水)、8月24日(木) 10:00-12:00 【講師】1人(のべ2人) 【関係機関との連携】あり(横浜市港北国際交流ラウンジ「多文化ママカフェ」) 日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無:参考にした</p> <p>教室2(会場) 【名称】おやこで にほんご ヨガ@スマイル・ポート 【実施回数】1回(90分) 【受講者数】15人 親子6組(親:8人、子ども:7人)(のべ15人) ネパール7人、中国2人、アメリカ2人、日本2人、スイス1人 【実施場所】西区地域子育て支援拠点「スマイル・ポート」 【内容】親子ヨガ、手遊び歌、交流などを、日本語を使いながら親子で楽しむ 【開始した月】10月 (開催日)10月21日(土) 10:00-11:30 【講師】1人 【関係機関との連携】あり(西区地域子育て支援拠点「スマイル・ポート」と共催) 日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無:参考にした</p>
<p>活動3 既設</p>	<p><u>(7-3) 初期日本語教室「はじめての横浜」</u> 日本語を学習した経験がない、または学習を始めたばかりの外国人を対象に、入門レベルの教室を開催した。夏・秋・冬の3コースを行った。</p> <p>教室1(夏コース) 【名称】「はじめての横浜～日本語で話そう」夏コース 【目標】日本語を学習した経験がない、または学習を始めたばかりの外国人がコミュニケーション初歩のあいさつ言葉などを学習する。また、横浜で暮らすために必要となる情報を得、地域での活動につながるようにする。 【実施回数】12回(1回75分) 【受講者数】13人(のべ91人) 中国5人、ネパール1人、台湾1人、ウズベキスタン1人、ミャンマー1人、インド2人、スリランカ2人 【実施場所】オンライン(Zoom) 【受講者募集方法】地域日本語教室等への案内、公共施設(国際交流ラウンジ、区役所等)などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS等による広報 【内容】挨拶、自己紹介など生活に役立つ入門レベルの日本語学習/生活情報 具体的な指導内容: 第1回 教室説明&「自己紹介」 第2回 「あいさつ」 第3回 「すみません、よくわかりません」 第4回 「日本語で何と言いますか？」</p>

第5回 第2～4回 復習&文字学習「ひらがな」

第6回 「家族は〇〇です」

第7回 「私の好きなもの、好きなことは」

第8回 「私の趣味は」

第9回 第6～8回 復習&文字学習「カタカナ」

第10回 「私の国は」(地図、言葉、首都など)

第11回 「私の国は」(有名な〇〇)

第12回 成果発表「自国紹介」

【開始した月】6月

(開催日)2023年6月30日(金)、7月4日(火)、7月7日(金)、7月11日(火)、
7月14日(金)、7月18日(火)、7月21日(金)、7月25日(火)、7月28
日(金)、8月1日(火)、8月4日(金)、8月8日(火) 14:00-15:15

【講師】3人(のべ36人)

日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした

教室2(秋コース)

【名称】「はじめての横浜～日本語で話そう」秋コース

【受講者数】18人(のべ66人)

中国9人、インド3人、韓国2人、ネパール1人、フィリピン1人、
セネガル1人、モンゴル1人

【内容】挨拶、自己紹介など生活に役立つ入門レベルの日本語学習／生活情報

【開始した月】11月

(開催日)2023年11月7日(火)、11月10日(金)、11月14日(火)、11月17日(金)、
11月21日(火)、11月24日(金)、11月28日(火)、12月1日(金)、12月5
日(火)、12月8日(金)、12月12日(火)、12月15日(金) 14:00-15:15

以下は、教室1(夏コース)と同じ。

【目標】【実施回数】【実施場所】【受講者募集方法】【講師】日本語教育の参照枠や、
標準的なカリキュラム案等の活用の有無

教室3(冬コース)

【名称】「はじめての横浜～日本語で話そう」冬コース

【受講者数】15人(のべ130人)

中国3人、韓国3人、フィリピン3人、インド2人、メキシコ2人、
ネパール1人、台湾1人

【内容】挨拶、自己紹介など生活に役立つ入門レベルの日本語学習／生活情報

【開始した月】1月

(開催日)2024年1月12日(金)、1月16日(火)、1月19日(金)、1月23日(火)、
1月26日(金)、2月2日(金)、2月6日(火)、2月9日(金)、2月
13日(火)、2月16日(金)、2月20日(火) 14:00-15:15

以下は、教室1(夏コース)と同じ。

【目標】【実施回数】【実施場所】【受講者募集方法】【講師】日本語教育の参照枠や、

	標準的なカリキュラム案等の活用の有無
活動4 既設	<p>(7-4) ICT 活用日本語教室</p> <p>オンライン学習教材を用いた学習の機会、また、幅広い学習の選択肢を提供し、自律学習へとつながるような日本語教室を実施した。7月・1月・2月の3コースを行った。</p> <p>教室1 (7月コース)</p> <p>【名称】日本語学習者向け「オンライン教材を活用した日本語教室」 「よこはまでつながるくらしの日本語」 7月コース</p> <p>【目標】オンライン学習教材を活用した日本語教室への参加を通して、学習者がオンライン学習教材を使用する契機となる。幅広い学習の選択肢を提供することで、自律学習へとつなげる。</p> <p>【実施回数】 4回 (1回 90分)</p> <p>【受講者数】 学習者 13人 (のべ34人) 中国 8人、台湾 2人、バングラデシュ 1人、インド 1人、メキシコ 1人</p> <p>【実施場所】 オンライン</p> <p>【受講者募集方法】 地域日本語教室等への案内、公共施設 (国際交流ラウンジ、区役所等) などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS等による広報</p> <p>【内容】 ICT コンテンツを活用した日本語教室</p> <p>○具体的な指導内容： 文化庁「つながるひろがるにほんごでのくらし」を活用し、実生活に役立つトピックなどをテーマとして、自分のことや自分の国・地域に関わることを話すと同時に、日本の生活や文化などについて学ぶ。</p> <p>○テーマ：お出かけ (第1回 お祭り／第2回 電車に乗る／第3回 イベントに参加する／第4回 道を聞く)</p> <p>【開始した月】 7月 (開催日) 7月6日、7月13日、7月20日、7月27日 (木) 10:00-11:30</p> <p>【講師等】 講師 2人 (のべ4人) サポーター (日本語学習支援者) 10人 (のべ24人)</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした</p> <p>教室2 (1月コース)</p> <p>【名称】日本語学習者向け「オンライン教材を活用した日本語教室」 「よこはまでつながるくらしの日本語」 1月コース</p> <p>【受講者数】 学習者 17人 (のべ44人) 中国 8人、韓国 3人、スイス 1人、インド 3人、セネガル 1人、メキシコ 1人</p> <p>【実施場所】 オンライン</p> <p>【内容】 ○テーマ：健康と安全 (第1回 病院受付編／第2回 病院予防編／第3回 ドラックストア編／第4回 救急車を呼ぶ)</p> <p>【開始した月】 1月 (開催日) 1月11日、1月18日、1月25日、2月1日 (木) 10:00-11:30</p>

	<p>【講師等】講師 1 人（のべ 4 人） サポーター（日本語学習支援者）8 人（のべ 23 人） 以下は、教室 1（7 月コース）と同じ。</p> <p>【目標】【実施回数】【実施場所】【受講者募集方法】【講師】日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無</p> <p>教室 3（2 月コース）</p> <p>【名称】日本語学習者向け「オンライン教材を活用した日本語教室」 「よこはまでつながるくらしの日本語」 2 月コース</p> <p>【受講者数】学習者 13 人（のべ 37 人） 中国 7 人、インド 2 人、韓国 1 人、スイス 1 人、セネガル 1 人、メキシコ 1 人</p> <p>【実施場所】オンライン</p> <p>【内容】○テーマ：買い物（第 1 回 スーパーで買い物をする／第 2 回 試着を申し出る／第 3 回 返品・交換をする／第 4 回 お店の機能を使う）</p> <p>【開始した月】2 月 （開催日）2 月 15 日、2 月 22 日、2 月 29 日、3 月 7 日（木）10:00-11:30</p> <p>【講師等】講師 1 人（のべ 4 人） サポーター（日本語学習支援者）8 人（のべ 21 人） 以下は、教室 1（7 月コース）と同じ。</p> <p>【目標】【実施回数】【実施場所】【受講者募集方法】【講師】日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無</p>
<p>活動 5 既設</p>	<p><u>(7-5) ウクライナ避難民等向け日本語学習支援</u></p> <p>横浜に滞在するウクライナ避難民等がより生活しやすくなるよう、日常生活に必要なことばや文化習慣等を学んだ。地域住民（日本語学習支援者、行政等）の協力も得ることで、日本語学習を通じて生活でできることや知り合いが増え、今後の地域社会参加や生活の見通しをたてることにつながった。</p> <p>教室 1（1 期）</p> <p>【名称】ウクライナの人のためのしごとのにほんごサロン</p> <p>【趣旨】横浜に滞在するウクライナ避難民等が、職場や地域生活において必要とする日本語やコミュニケーションについて学ぶ</p> <p>【目標】職場での自己紹介や身の回りのことについて、簡単なコミュニケーションがとれるようになる。仕事や日本の生活に必要な日本語、日本人とのコミュニケーションについて、ある程度分かるようになる。</p> <p>【実施回数】10 回（1 回 60 分）</p> <p>【受講者数】14 人（のべ 79 人） ウクライナ 14 人</p> <p>【実施場所】オンライン（Zoom）</p> <p>【受講者募集方法】ウクライナ避難民を対象にウクライナ交流カフェ「ドゥルーズィ」</p>

	<p>などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS 等による広報</p> <p>【内容】仕事や日本の生活に必要な日本語、日本人とのコミュニケーションについて学ぶ。仕事や生活での疑問点などを持ちより、疑問の解消、参加者同士の情報交換を行う。</p> <p>【開始した月】5月 (開催日) 5月19日、5月26日、6月2日、6月9日、6月16日、6月23日、6月30日、7月7日、7月14日、7月21日(金) 19:00-20:00</p> <p>【講師等】3人(講師:1人、講師アシスタント兼通訳:2人*各回1人) (のべ20人)</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無:参考にした</p> <p>教室2(2期)</p> <p>【名称】ウクライナの人のためのしごとのにほんごサロン 2期</p> <p>【受講者数】18人(のべ99人) ウクライナ18人</p> <p>【開始した月】9月 (開催日) 9月15日、9月22日、9月29日、10月6日、10月13日、10月20日、10月27日、11月10日、11月17日、11月24日(金) 19:00-20:00</p> <p>以下は、教室1(1期)と同じ。</p> <p>【目標】【実施回数】【実施場所】【受講者募集方法】【講師等】日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無</p> <p>教室3(3期)</p> <p>【名称】ウクライナの人のためのしごとのにほんごサロン 3期</p> <p>【実施回数】9回(1回60分)</p> <p>【受講者数】17人(のべ98人) ウクライナ17人</p> <p>【開始した月】12月 (開催日) 12月15日、12月22日、2024年1月12日、1月19日、1月26日、2月2日、2月9日、2月16日、3月1日(金) 19:00-20:00</p> <p>【講師等】3人(講師:1人、講師アシスタント兼通訳:2人*各回1人) (のべ18人)</p> <p>以下は、教室1(1期)と同じ。</p> <p>【目標】【実施場所】【受講者募集方法】日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無</p>
<p>活動6 既設</p>	<p>教室4(コース1)</p> <p>【名称】にほんごクラス・ドゥルーズィみらいコース1</p> <p>【目標】日本での生活に役立つ基本的な日本語の表現・言葉を、主に生活の場面から学習する。日本語で実際にコミュニケーションしながら、お互いに理解し合うこと目指し、役立つ情報を得、参加者同士が気軽に交流できる場とする。</p> <p>【実施回数】10回(1回90分)</p>

	<p>【受講者数】 学習者 15 人（のべ 102 人） ウクライナ 15 人</p> <p>【実施場所】 ウクライナ交流カフェ「ドゥルーズィ」</p> <p>【受講者募集方法】 ウクライナ避難民を対象にウクライナ交流カフェ「ドゥルーズィ」などでのチラシ配布等を通じた案内、SNS 等による広報</p> <p>【内容】 生活場面や日常のコミュニケーションに役立つテーマ（トピック）に基づく日本語活動</p> <p>【開始した月】 10 月 （開催日） 10 月 17 日、10 月 24 日、10 月 31 日、11 月 7 日、11 月 14 日、11 月 21 日、11 月 28 日、12 月 5 日、12 月 12 日、12 月 19 日（火） 10:30-12:00</p> <p>【講師等】 講師 2 人（のべ 10 人） サポーター（日本語学習支援者） 4 人（のべ 18 人）</p> <p>日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした</p> <p>教室 5（コース 2）</p> <p>【名称】 にほんごクラス・ドゥルーズィみらいコース 2</p> <p>【実施回数】 8 回（1 回 90 分）</p> <p>【受講者数】 学習者 16 人（のべ 95 人） ウクライナ 16 人</p> <p>【内容】 生活場面や日常のコミュニケーションに役立つテーマ（トピック）に基づく日本語活動</p> <p>【開始した月】 1 月 （開催日） 1 月 9 日、1 月 16 日、1 月 23 日、1 月 30 日、2 月 6 日、2 月 13 日、2 月 20 日、2 月 27 日（火） 10:30-12:00</p> <p>【講師等】 講師 2 人（のべ 8 人） サポーター（日本語学習支援者） 2 人（のべ 10 人）</p> <p>以下は、教室 4 と同じ。</p> <p>【目標】 【実施場所】 【受講者募集方法】 日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無</p>
<p>活動 7 新設</p>	<p>教室 6（夏コース）</p> <p>【名称】 かちだ日本語クラス 夏コース</p> <p>【趣旨】 横浜に滞在するウクライナ避難民等が安全・安心に生活できるよう、市営住宅の近隣地域において日常生活に必要なことばや文化習慣等を学ぶ。</p> <p>【目標】 日本での生活に役立つ基本的な日本語の表現・言葉を学習し生活情報を得ながら参加者同士が交流することで地域とつながる機会をすることで、横浜の生活に慣れるきっかけにする。</p> <p>【実施回数】 6 回（1 回 60 分）</p> <p>【受講者数】 学習者 6 人（のべ 13 人） ウクライナ 6 人</p> <p>【実施場所】 横浜市新栄地域ケアプラザ</p> <p>【受講者募集方法】 横浜市新栄地域ケアプラザなどでのチラシ配布等を通じた案内</p> <p>【内容】 生活に役立つ日本語の学習、生活情報の提供、参加者との交流</p> <p>【開始した月】 8 月</p>

	<p>(開催日) 8月5日、8月19日、9月2日、9月16日、10月7日、10月21日 (土) 10:30-11:30</p> <p>【講師等】コーディネーター1人 (のべ6人) サポーター (日本語学習支援者) 2人 (のべ9人)</p> <p>【関係機関との連携】新栄地域ケアプラザと共催 日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした</p> <p>教室7 (冬コース)</p> <p>【名称】かちだ日本語クラス 冬コース</p> <p>【実施回数】8回 (1回60分)</p> <p>【受講者数】学習者1人 (のべ2人) ウクライナ1人</p> <p>【内容】生活に役立つ日本語の学習、生活情報の提供、参加者との交流</p> <p>【開始した月】11月 (開催日) 11月4日、11月18日、12月2日、12月16日、1月6日、1月20日、 2月10日、2月24日 (土) 10:30-11:30</p> <p>【講師等】コーディネーター1人 (のべ8人) サポーター (日本語学習支援者) 2人 (のべ16人)</p> <p>以下は、教室6 (夏コース) と同じ。</p> <p>【目標】【実施場所】【受講者募集方法】【関係機関との連携】日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無</p>
--	--

(取組⑧～⑮) その他の取組

(取組9) 地域日本語教育の効果を高めるための取組

(9-1) 学習者向けにほんご交流会

日本語を勉強している人 (外国人など) が、日本語で楽しく交流する集まりを行った。

【名称】オンラインおしゃべり交流会 ほっとタイム NIHONGO ではなそう！

【実施回数】全1回×11か月 (1回60分)

【受講者数】学習者21人 (のべ45人)

中国9人、インドネシア3人、イエメン2人、台湾2人、カナダ1人、

インド1人、韓国1人、アメリカ1人、ブラジル1人

ボランティア (日本語学習経験者等) 他 3人 (のべ30人)

【実施場所】オンライン (Zoom)

【内容】テーマに沿った小グループでのフリートーク。

【テーマ】旅行の思い出 他

【開始した月】5月

(開催日) 5月12日、6月2日、7月7日、8月4日、9月1日、10月6日、

11月10日、12月1日、1月12日、2月2日、3月1日 (金) 10:15-11:15

【進行】2人 (YOKE スタッフ・入門講座外国人コース修了者等)

(取組10) 地域日本語教育に付随して行われる取組

(取組10) ドゥルーズィ日本語ワークショップ

ウクライナ避難民が、日本の文化や季節行事を体験しながら簡単な日本語を学び、日本での生活をしやすくし、市民との交流機会とするため実施した。

【名称】ドゥルーズィ日本語ワークショップ

【実施回数】全1回×11か月

【受講者数】129人

ウクライナ 129人

【実施場所】ウクライナ交流カフェ「ドゥルーズィ」

【内容】テーマに基づく文化行事の紹介、体験、関連する日本語の学習、参加者の交流

【開始した月】5月

【講師等】33人（各回3人）

【開催日】【開催時間】【受講者数（各回）】【テーマ】は下記参照のこと。

開催日	開催時間	受講者	テーマ
5月12日(金)	15:00-16:30	10人	伝統芸能 南京玉すだれ
6月9日(金)	15:00-16:30	7人	絵手紙
7月14日(金)	15:00-16:30	14人	ゆかた
8月18日(金)	15:00-16:30	20人	サブカルチャー
9月8日(金)	15:00-16:30	10人	まつり
10月13日(金)	15:00-16:30	3人	日本舞踊
11月10日(金)	15:00-16:30	20人	手品
12月8日(金)	15:00-16:30	13人	正月の飾り
1月12日(金)	15:00-16:30	9人	生け花
2月9日(金)	15:00-16:30	4人	将棋
3月1日(金)	15:00-16:30	19人	買い物

日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無：参考にした

（取組11）日本語教育に関する広報活動

（取組11）企業向け異文化間理解講座

外国人を雇用している企業向けに、職場でのコミュニケーションについての講座を開催した。

【名称】外国人材雇用企業のための「異文化間コミュニケーション講座」

【実施回数】2回

【受講者数】9人（のべ15人）

横浜市内に事業所があり、現在外国人材を雇用している企業、あるいは外国人を雇用を検討している企業担当者（情報・通信、サービス等 9社）

【実施場所】オンライン（Zoom）

【内容】第1回 外国人材雇用企業に聞く「外国人スタッフ受入れのために取り組んだこと」

第2回 外国人スタッフとのコミュニケーションで大切なことを知る「異文化間コミュニケーションと、外国人スタッフに伝わるやさしい日本語」

【開始した月】2月

（開催日）2月1日（木）、2月15日（木） 18:30-20:00

【講師】3人（のべ3人）

【関係機関との連携】あり（公益財団法人横浜企業経営支援財団、一般社団法人横浜市工業会連合会、横浜商工会議所他。広報協力など）

(4-1) よこはま日本語学習支援センターの運営（再掲）

【時期】4月1日（土）～3月31日（日）

【場所】公益財団法人横浜市国際交流協会内

【役割】1 地域日本語教育の総合的な体制づくりを進める基盤となる拠点
2 外国人住民の日本語習得支援のための拠点

(4-5) 広報・情報提供：情報冊子「にほんごコミュニケーション」の発行（再掲）

【名称】にほんごコミュニケーション

【発行日】7月5日（通算12号）、11月5日（通算13号）、3月5日（通算14号）

【部数】各3,000部

【体裁】A4版12ページ

【言語】日本語・英語（英語は冊子の一部分をwebサイトで公開）

【内容】地域日本語教育に関する情報提供や、教室の取り組みなどの紹介

横浜に暮らす外国人住民のトークリレーやおすすめスポットを紹介

（特集）12号「2022年度事業ふりかえり会」から展望する 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業 横浜×日本語×多文化共生

13号 2022年度 地域日本語教育モデル地域 活動報告会 支援団体のネットワークで進める地域の日本語教育と多文化共生のまちづくり

14号 横浜×日本語×多文化共生 ～誰もが働きやすく、活躍できる横浜を目指して

(4-6) 広報・情報提供：ホームページの充実（再掲）

【内容】よこはま日本語学習支援センターWEBサイトの公開

【言語】日本語・英語・その他言語は自動翻訳機能を活用

【年間アクセス数】日本語版 86,759件 3月22日現在

英語版 5,594件 3月22日現在

【URL】日本語版 <https://yokohama-nihongo.com/>

英語版 <https://yokohama-nihongo.com/en/>

(4-7) 広報・情報提供：日本語・学習支援教室データベース（横浜）の運営（再掲）

【名称】日本語・学習支援 教室データベース（横浜）

【内容】横浜市内で活動する日本語教室・学習支援教室の情報

【掲載数】140 教室

(4-8) 広報・情報提供：コミュニケーション促進に向けた講座や情報提供（再掲）

【対象】日本語・学習支援教室データベース（横浜）掲載団体（教室）

【実施時期】5月

【対象】138教室

【回収】99教室 回収率 72%

【内容】1 データベース掲載内容の変更についての有無

2 オンライン対応の表示希望の有無

3 学習者募集・支援者募集の有無

(取組 12) ICT を活用した教育・支援

(6-5) ICT 活用講座「支援者向けオンライン日本語学習支援講座」(再掲)

講座 1

【名称】支援者向け オンライン日本語学習支援講座 基本編&応用編 (6月コース)

【実施回数】全2回

【受講者数】29人 (のべ49人)

【実施場所】オンライン (Zoom)

【内容】基本編「簡単で楽しいオンライン日本語支援をしてみよう」

応用編「オンライン日本語学習サイトを活用した支援を体験しよう」

【開始した月】6月

(開催日) 基本編 6月22日 (木) 10:00-12:00

応用編 6月29日 (木) 10:00-12:00

【講師】2人 (のべ2人)

講座 2

【名称】支援者向け オンライン日本語学習支援講座 基本編&応用編 (12月コース)

【実施回数】全2回

【受講者数】24人 (のべ41人)

【実施場所】オンライン (Zoom)

【内容】基本編「簡単!楽しい!オンラインでコミュニケーション!~オンラインで日本語支援をしてみよう~」

応用編「オンライン日本語学習サイトを活用した支援を体験しよう」

【開始した月】12月

(開催日) 基本編 12月14日 (木) 10:00-12:00

応用編 12月21日 (木) 10:00-12:00

【講師】2人 (のべ2人)

(取組 14) 成果の普及

(4-9-4) 2022 年度モデル地域活動報告会 (再掲)

【名称】2022 年度地域日本語教育推進モデル地域活動報告会

「支援団体のネットワークで進める地域の日本語教育と多文化共生のまちづくり」

~モデル地域3区での実践報告~

【実施回数】1回

【受講者数】 51 人
 【実施場所】 オンライン (Zoom)
 【内容】 基調報告「子どもから大人までの切れ目のない地域日本語教育を目指して」
 活動報告「2022 年度地域日本語教育推進モデル地域 3 区での取組」
 【講師】 1 人
 【開始した月】 8 月
 (開催日) 8 月 30 日 (水) 15:00-17:00

(4-10) 地域日本語シンポジウム「まちの日本語プラットフォーム」(再掲)

【名称】 横浜 まちの日本語プラットフォーム 2023
 「外国につながるわたしのチャレンジ～多様な人が活躍し、ともに暮らす地域へ～」
 【実施回数】 1 回
 【受講者数】 106 人
 【実施場所】 オンライン (Zoom)
 【内容】 事例報告「日本での私のチャレンジとその思い、地域で出会った仲間たち」
 登壇者パネルディスカッション「外国につながる方の活躍のために、必要なこと」
 【開始した月】 2 月
 (開催日) 2 月 26 日 (月) 19:00-21:00

(4-11) 2022 年度地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業ふりかえり会 (再掲)

【名称】 2022 年度地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業ふりかえり会
 【実施回数】 1 回
 【参加者数】 33 人
 【実施場所】 横浜国際協力センター会議室
 【内容】 事業担当者・協力者による 2022 年度各事業のふりかえり、参加者の情報交換・意見交換
 【開始した月】 5 月
 (開催日) 5 月 24 日 (水) 14:00-17:00

2. 市区町村の日本語教育の取組への支援

(取組①) 市区町村を支援して実施する日本語教育

なし

(取組②) 取組 1 以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育

なし

5 主要な取組の実施状況

令和 5 年 4 月	補助金交付決定、事業開始 (取組 2) 総括コーディネーター・地域日本語教育コーディネーターの配置
------------	--

	(取組 4)相談対応、地域日本語教室への個別訪問 ((※) 以降、随時対応)
5 月	(取組 4) 地域日本語教室の活動状況についてアンケート 実施 (取組 4) 2022 年度地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業ふりかえり会開催 (取組 7) ウクライナの人のためのしごとのにほんごサロン I 期 開催 (取組 9) 学習者向け日本語交流会 (※) 以降、毎月開催 (取組 10) ドゥルーズィ日本語ワークショップ (※) 以降、毎月開催
6 月	(取組 6) ICT 活用講座・支援者向け (6 月コース) 開催 (取組 7) 「はじめての横浜～日本語で話そう」 夏コース 開始
7 月	(取組 1) 第 1 回総合調整会議 開催 (取組 2) 地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組 研修会 開催 (取組 4) 情報冊子通算 12 号発行 (取組 7) 企業従業員向け日本語教室 1 期 開始 (取組 7) ICT 活用日本語教室 7 月コース 開始
8 月	(取組 4) 2022 年度モデル地域活動報告会 開催 (取組 4) 国際交流ラウンジ等訪問・ヒアリング 開始 (取組 7) 親子日本語教室 (オンライン) 開催 (取組 7) かちだ日本語クラス 夏コース 開始
9 月	(取組 6) 日本語ボランティア入門研修(一般向けコース) 開催 (取組 6) 日本語ボランティア入門研修(外国人向けコース) 開催 (取組 7) ウクライナの人のためのしごとのにほんごサロン 2 期 開始
10 月	(取組 7) 親子日本語教室 (対面・会場) 開催 (取組 7) にほんごクラス・ドゥルーズィみらいコース 1 開始
11 月	(取組 1) 第 2 回総合調整会議 開催 (取組 4) モデル地域：磯子区 日本語ボランティア入門講座 開始 (取組 4) モデル地域：瀬谷区 日本語ボランティア入門講座 開始 (取組 7) 企業従業員向け日本語教室 II 期 開始 (取組 7) 「はじめての横浜～日本語で話そう」 秋コース 開始 (取組 7) かちだ日本語クラス 冬コース 開始
12 月	(取組 4) 情報冊子通算 13 号発行 (取組 6) 日本語ボランティアブラッシュアップ研修 開催 (取組 6) ICT 活用講座・支援者向け (12 月コース) 開催 (取組 7) ウクライナの人のためのしごとのにほんごサロン 3 期 開始
令和 6 年 1 月	(取組 7) 「はじめての横浜～日本語で話そう」 冬コース 開始 (取組 7) ICT 活用日本語教室 1 月コース 開催 (取組 7) にほんごクラス・ドゥルーズィみらいコース 2 開始
2 月	(取組 1) プロジェクト推進ワーキンググループ会議開催

	(取組 4)モデル地域：磯子区 やさしい日本語研修 開催 (取組 4)地域日本語シンポジウム「まちの日本語プラットフォーム」開催 (取組 6)地域日本語教室運営者等向け研修 開催 (取組 6)よこはま地域日本語実践もちより会 開催 (取組 7)ICT 活用日本語教室 2月コース 開催 (取組 11)企業向け異文化間理解講座 開催
3月	(取組 1)第3回総合調整会議 開催 (取組 4)情報冊子通算 14号発行 下旬 事業終了、実績報告書の提出

6 評価と検証

1. 令和5年度の計画の評価と検証方法	
<p>【令和5年度の目標】(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人住民に身近な存在である「地域日本語教室」を横浜市域の地域日本語教育推進のベースとして、教室間のネットワーキングを通して日本語指導力の強化や教室の活動内容の改善等、各教室の底上げが図られるような仕組みづくりを行う。 「横浜市国際交流協会(YOKE)」は地域日本語教育の中核的な役割を担い、上記ネットワーク構築の支援、日本語学習支援者の発掘や育成、新たなニーズに応える日本語教室の開催などの実施を通し、地域における日本語教育を支援・推進する。 市域日本語教育の推進に係る関係機関・団体等の有機的な連携の促進が図られる。 よこはま日本語学習支援センターを中心とする本取組みをさらに周知できるよう、広報力を高める。 	
<p>【令和5年度の目標達成に向けた指標(定量評価・定性評価を含む。)]</p> <p>【指標1：評価目標】</p> <p>事業連携団体数</p> <p>○目標値 170 団体(うち、企業との連携数 3社)</p> <p>○実績値 195 団体(うち、企業との連携数 5社)(前年実績 173 団体(うち、企業との連携数 4社))</p> <p>(定性評価) 地域日本語教育にかかる関係機関・団体等の連携促進による、市域の体制作りの推進度を、実績等により評価</p> <p>本事業の継続的な取り組みにより、地域子育て支援拠点や地域ケアプラザなど地域に根ざした公的施設と連携した日本語教室の開催、また、企業向け事業における業界団体とのつながり強化、などの成果があった。連絡会や研修会の開催等を通じて、関係者同士の情報交換が進んだ。</p>	
<p>【指標2：評価目標】</p> <p>モデル地域における事業関係者(講師、協力者、サポーター等)および事業協力団体</p> <p>○目標値 40人・団体</p> <p>○実績値 35人・団体(前年実績 44人・団体)</p> <p>(定性評価) モデル地域における、日本語学習支援を通じた区域の体制作りの推進度を、実績やモデル</p>	

地域への聞き取りにより評価

2区をモデル地域として事業を行った。目標値は未達となったが、区内の日本語教室や多文化共生に係る団体が集まる情報交換会が定着するなど、区域内のネットワーク形成に貢献することができた。日本語学習支援者向け講座等を通して、多文化共生への理解を進めた。また、区役所からのヒアリングからは、国際交流協会の関わりによるメリットとして、個別事業でのノウハウや多文化共生の知見が得られたことなどがあげられた。企画運営に国際交流ラウンジも参画することで、ノウハウの継承、また、共に多文化共生を考える機会となった。

【指標3：評価目標】

よこはま日本語学習センター機能の充実

○目標値 情報冊子発行部数 3号計 9,000部・web ページ 閲覧数 68,000・データベース掲載教室数 135教室

○実績値 情報冊子発行部数 3号計 9,000部・web ページ 閲覧数 86,759 (3/22現在)

・データベース掲載教室数 140教室

(前年実績 情報冊子 3号計 7,500部・web ページ閲覧数 (ページビュー) 73,561

・データベース 掲載教室数 137教室)

(定性評価) 日本語学習希望者や支援者・団体等の、日本語学習に関する情報のアクセス向上への取り組み等を実績等により評価

情報冊子は計画どおり発行した。文字を大きくするなどレイアウトのリニューアルを行った。また、特集のほか、人物にフォーカスするなど、体裁・内容ともに親しみやすい紙面を心がけ、積極的に手渡しも行うようにした。ホームページは、前年度に比べアクセス数が約17%増加した。よこはま日本語学習支援センターの認知度向上や、日本語教室や研修講座の開催情報を見やすくするなどのリニューアルの効果と考えている。

【検証方法】

日本語教室及び人材育成研修については、参加者・受講者アンケート等により効果を測定するとともに、事業目的「こどもから大人までの切れ目のない地域の日本語教育の支援、総合的な推進」につながっているか、質的な評価も行う。

その方法として、第一に、日本語教室においては、外国人のニーズに合わせた日本語学習機会の創出やアクセス性の向上につながっているかの把握を行う。また、教室の目的が明確になっているか、目的と合った教室となっているか、学習者が日本語を使って生活しやすくなったか、地域活動への参画の意欲が高まったか等質的な点については、開始前後のインタビューや観察・エピソード等により把握する。第二に、人材育成研修については、支援者のスキルアップのみならず、多文化共生社会への理解・関心につながっているか、また支援に関心のある人の新たな参画など、裾野が広がっているかという点からもアンケート等から把握に努める。さらに、体制づくりという観点から、日本語教育にかかる関係団体等との連携の状況等について、コーディネーターの活動内容や領域の広がりやつながりの深まりなどの可視化に努め、事業実施前後の変化をまとめる。

以上について、総合調整会議の場で報告し評価を得た。また、年度終了にあたり、総合調整会議委員から、本事業の効果に係る以下の点について訊ね、書面でのコメントを得た。

- 1 地域日本語教育にかかる関係機関・団体等の連携促進による、市域の体制作りの推進状況
- 2 「3つの視点（視点A・視点B・視点C）」からの取り組みの定着、広がり、深まり
 (視点A) よこはま日本語学習支援センターの充実
 (視点B) 地域日本語教育推進モデル地域等、地域での展開
 (視点C) 日本語支援を通じた活躍推進
- 3 2024 (R6) 年度の調査を通して、把握したいことは何か。
 (予定) 1 地域日本語教室 2 日本語教育機関 3 日本語教師養成機関 4 外国人雇用企業等
 5 国際交流ラウンジ 6 行政 7 日本語学習者調査 (新たに実施予定)
- 4 その他

<委員の声> *アンケート記述を要約・抜粋

- ・各事業（支援者間の情報交換会、各講座）は、関係機関・団体等の連携促進、市域の体制作りの推進に一役買っている。単発で終わらず、継続して行われてきたためであると考えます。
- ・市域を東西南北に分け、ラウンジとの連携や日本語教室の事例共有、問い合わせ記録などを共有することで互いの経験に置き換えて積むことができ、連携を取る中で支援者同士の関係性も良好になることと評価する。
- ・(モデル地域で) 当初は区も手探りであった印象が強かった。地域での展開はまだバックアップが必要だと思う。
- ・(総合調整会議について) 今までの発想を超えるためにも、事業についてコメントを求めるだけでなく、課題そのものを提示、共有し、各機関からの提案を募る方式もあってもいい。

【その他】

なし

2. その他、令和5年度事業の評価と検証方法

【各取組の指標及び検証方法（定量評価・定性評価）】

【取組⑥ 日本語教育人材に対する研修】

(定量評価) 実施する研修の数・参加人数

今年度目標 研修 10 箇所・参加人数 200 人 (前年度実績 : 15 箇所・263 人)

今年度実績 11 箇所 245 人

(定性評価) 参加者満足度 85%以上

(検証方法) アンケートによる評価等

研修講座については、ほぼ計画どおりの参加者を得ることができた。企画運営にあたっては、日本語教育の参照枠など国の動きも意識しつつ、横浜の地域性や社会資源も考慮し、参加者の行動につながる研修となるように努めた。参加者満足度は、すべての講座で85%以上だった。

【取組⑦ 地域日本語教育の実施】

(定量評価) 実施する日本語教室の数・参加人数

今年度目標 19 箇所・学習者 205 人、講師等 60 人

(前年度実績：20 箇所・学習者約 529 人、講師等 65 人)

今年度実績 17 箇所・学習者 236 人、講師等 70 人

(定性評価) 参加者満足度 85%以上

(検証方法) アンケートによる評価等

企業従業員向け、親子向け、ウクライナ避難民向け、初期日本語学習向け、ICT 活用等、対象者または学習段階・方法に合わせた日本語教室を開催し、学習者数は概ね目標どおりとなった。モデル地域での新たな日本語教室の開催がなかったことなどにより、実施箇所は目標を若干下回ったが、教室運営にあたっては、日本語教師のほか日本語学習支援者等がサポーターとして参加するなど、多様な人が関われるように工夫した。参加者満足度は、すべての講座で 85%以上だった。

【取組⑨ 地域日本語教育の効果を高めるための取組】

(定量評価) オンラインサロン (学習者向け) の実施回数・参加人数

今年度目標 12 回・72 人 (前年度実績：12 回・52 人)

今年度実績 11 回・24 人

(定性評価) 参加者満足度 85%以上

(検証方法) アンケートによる評価

参加者数は目標を下回る結果となったが、リピーター参加があるなど、継続的な学びや交流促進の機会を提供できた。特に、入門講座 (外国の方向け) の修了者が継続的にスタッフとして参加し、当日の進行等を担うなど外国人の活躍を次のステップへつなげていく経験の蓄積や土台ができた。参加者満足度は 100%だった。

7 検証を踏まえた課題と今後の展望

1. 検証を踏まえた課題と今後の展望

(1) 検証を踏まえた課題

評価と検証をふまえ、令和 5 年度に設定した「3 つの視点」に基づく取組をもとに、課題をあげたい。「(視点 A) よこはま日本語学習支援センターの充実」では、外国につながる子どもの日本語学習機会を望む相談・問合せに対し、十分な紹介ができなかった。総合調整会議でも就学前・小中学校・高校と、ライフステージに合わせた支援の必要性が繰り返し指摘されており、国際交流協会が行う、他の多文化共生事業との有機的な連携が必要である。また、地域日本語教室や公的機関とのやりとりは進んだが、市内日本語教育機関等、日本語教育の専門機関との関わりは進展せず、今後の課題といえる。

「(視点 B) 地域日本語教育推進モデル地域等、地域での展開」では、モデル地域事業が令和 5 年度で終了することをにらみ、特定の区との連携支援体制から、18 区との日常的な連携を目指し、各区への訪問を行った。今後の具体的な連携・協力関係の枠組みづくり、関係構築はこれからといえる。「(視点 C) 日本語支援を通じた活躍推進」では、日本語学習経験者の主体的な取り組みのサポートの必要性を

感じる。

<委員の声> *アンケート記述を要約・抜粋

- ・よこはま日本語支援センターはある程度定着してきたが、相談対応の質向上を目指すのかなど、今後の方向性がより明確になるとよい。
- ・日本語学習の機会を求める外国人の側からの評価をいかに得るかが重要である。ウェブサイトの英語版に改善の余地あり。外国から来て、日本語を学習する機会をみつきたいという人の立場にたち、多様な外国人からのフィードバックが必要ではないか。
- ・「連携」は引き続き課題がある。どんな連携がされているのか、必要なのか、具体的なイメージが見えるために、日本語教育に限らない連携のありかたを含めた、生活上のさまざまな段階について検討が必要である（来日初期段階、未就学児をもつ保護者、小中高、地域ほか）。
- ・施設等におけるやさしい日本語習得の必要性や、外国につながる子どもの日本語教育も大きな課題である。

(2) 今後の展望

令和2年度からの4年間の事業では、事業の実施目標や、アクションプランで目指す姿「子どもから大人までの切れ目のない地域日本語教育（学習支援）の実現」に向け、地域日本語教育コーディネーターを中心として事業を進めた。その結果、よこはま日本語学習支援センターとしての活動実績・経験が蓄積された。なかでも、区役所・地域日本語教室・市民利用施設などと協働での事業展開や、アウトリーチ支援を行うことで、事業展開・地域への広がりがみえ、関係者間でノウハウが共有され、また、地域における多文化共生の推進に向けた意識醸成がある程度進んだととらえている。日本語教育（日本語教室）については、対象別、また、開催手法や日時を変えて実施した。日本語教師とコーディネーターが目標を共有し、コンセプトを明確にした教室を行うことの意義がみえた。今後は、市内では市民が担う地域日本語教室の活動もあるなかで、本事業が担う役割を再考し、また、予算措置も含め、継続的で安定した事業として実施できるよう、取り組んでいきたい。令和6年度には、市域における日本語教育に関する実態調査を計画している。この調査を通じて、市域の状況や外国人のニーズを把握したうえで、新たな体制づくりに向けた検討を行う。

<委員の声> *アンケート記述を要約・抜粋

- ・国際交流協会の知名度を上げ、地域日本語教育に関心がない方々や外国につながる方々が、いざという時につながるような工夫を継続的に行っていくことが重要。
- ・多文化共生という分野は、短期間で数値化できる結果が簡単に出る分野ではなく、地道な取り組みを継続する必要がある。継続すべき大事な取り組みを見落とすことがないよう、事業を精査していただきたい。
- ・日本語教育人材のうち、特に日本語学習支援者の役割やその立ち位置を、よりわかりやすくしていく必要がある。体制づくりの中で、担い手の人材育成として議論したい。
- ・学習者調査で、どこで何時なら学習できるのか具体的な質問が望まれる。日本語学習をしたいという人がどうやったら教室に来るのか、教室の情報をどうやって伝えるのかを考える時期。

2. その他、課題と困難な状況への対応方法等

(1) 課題と困難な状況への対応方法

コロナ禍での対面活動制限期間中は、オンラインやICTを活用したコミュニケーション方法を模索し、オンライン日本語教室や研修・シンポジウムの開催等、新たな手法での事業の進め方について、ある程度経験を積むことができた。日本語学習者にとっても、学習方法の選択肢が増えることにつながった。国際交流ラウンジや地域日本語教室の支援者に対しても、その手法と特徴をともに学ぶ機会を設けたことで、参加者と顔が見えやすくなった。また、市内団体からの要望や相談に対し、本事業の計画外の内容（子どもの学習支援、情報発信と絡めたやさしい日本語講座など）、国際交流協会での事業として引き受けるなど、状況に合わせた対応を行うようにした。

【参考写真一覧】

取組番号	写真名
4-5	情報冊子「にほんごコミュニケーション」の発行
	
6-2	入門研修「日本語ボランティア入門講座（一般向けコース）」
	
7-2	親子日本語教室「おやこ で にほんご ヨガ at スマイル・ポート」



7-5

ウクライナ避難民向け日本語教室「ドゥルーズィ みらいコース」



【参考資料一覧】

	取組番号	資料名	NEWS 掲載
1	全体	2023 年度地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業実施報告（概要版）	○
2	4-5	(4-5) 情報冊子「にほんごコミュニケーション」 第12号（7月5日発行）・第13号（11月5日発行）・第14号（3月5日発行）	○
3	4-9-3	(4-9-3) 2022 年度地域日本語教育推進モデル地域 活動報告会報告書	○
4	6-2	(6-2) 入門研修（一般向けコース）報告書	○
5	6-3	(6-3) 入門研修（外国人対象コース）報告書	○
6	6-4	(6-4) 日本語ボランティアブラッシュアップ講座 報告書	○
7	6-5	(6-5) ICT 活用講座（6月・12月コース） 報告書	○
8	7-2	(7-2) 親子日本語教室（オンライン） 報告書	○
9	7-2	(7-2) 親子日本語教室（おやこでにほんごヨガ） 報告書	○
10	7-3	(7-3) 初期日本語教室（夏・秋・冬コース） 報告書	○
11	7-4	(7-4) ICT 活用日本語教室（7月コース） 報告書	○

12	7-5	(7-5) ウクライナ避難民向けかちだ日本語クラス(夏・冬コース) 報告書	○
13	9-1	(9-1) 学習者向けにほんご交流会 報告書	○
14	10-1	(10-1) ドゥルーズィ日本語ワークショップ 報告書	○